

アマダイ通信NO. 101

(Tile fish network letter)

2014年蝉鳴き蝶舞う

知人・友人各位

お陰さまで100号まで続き、新しいスタートとなった本通信。当初、オアシスやルポなどのワープロで原稿書き、IT革命と同時期に始まった。冷戦体制崩壊による労働市場の拡大とフラット化、競争激化の結果、IT革命の成果は資本が総取りしているようにみえる。出来ればITによる効率化、生産性向上の果実は働く者にも分配、労働時間の短縮、所得の向上、労働環境の改善、社会保障の充実という形で、人類の福祉の向上に幅広く役立って欲しい。長い目で見ればその方向に行くだろうが、産業革命以来という、IT化による生産性向上の成果は、類的存在としての全ての人間の幸福のために、シェアして欲しい！

◎旅鳥被災地へ、豊穡の海へ

この春、出張の多いこと、旅鳥は初めての被災地入り。盛岡から宮古経由、峠道を片道2時間半、営業に行った先のゼネコンの東北復興室長さんに車を運転して貰い、岩手の山田町へ。山を削って高台に住宅地を造成、削った土砂で沿海の低地をかさ上げするという。海岸に平行して走る一本の細いアスファルト舗装の道を挟んで、海寄りには枯草を縫い、かつてそこにあっただろう家のコンクリート基礎が巡り、山側には震災前と同じように、難を逃れた家が建ち並ぶ。その道を3人の学齢の女の子が通り、笑顔でこんにちは！と挨拶。こちらもこんにちは！と返し、春休み中だったことに気づく。

今は笑顔のこの子達も、多分あの日の今頃は迫り来る津波を背に必死で逃げ、何事もなかったように建つ山手の家も、津波の濁流が流れ込み、逃げ遅れた留守番の婆さんが二階に上がって水の退くのを待っていたのかも知れない。津波の巨大なエネルギーになす術もなく破壊された堤防は、裏返しになって無惨な姿を曝す。海辺では沈降した土地のかさ上げや堤防の再建を待てぬかのように、魚市場や水産加工場が再建され、その先の山田湾の穏やかな海面には無数の牡蠣やホタテの養殖イカダが並ぶ。災害瓦礫が山高く積み上げられていた海沿いの公園では瓦礫の処理も終わり、臨時の焼却場もあらかた解体されていた。

三陸の海に足を運ぶのはこれが二度目。かつて「路上観察学会」の「営業部長」として、芥川賞作家の赤瀬川原平やイラストレーターの南伸坊などと道の奥を行脚、ビュービューと風が泣く断崖の上に宿を取り、屏風ヶ浜の絶景に遊んだ、宮古の海岸とは違う、穏やかな景色が広がる。この穏やかな海でも、地震のエネルギーを得れば、恐ろしい津波となって、古来何度も繰り返し、人を襲った。その都度、一時の反省を忘れたかのように、人を海辺へと誘う魅力がこの海湾にはあるのだろう。狭い湾口の内側に大きく広がる海湖に無数に浮かぶイカダがそのことを教える。

狩猟・採集から農耕・畜産へ、漁猟・採集から養殖へと時代は移りつつあっても、効率を重んじる人の性は変わらず。豊穡の海こそ、災いの源泉なのか？白神の山波が海に雪崩込み、その小さな窪みに小舟を繋ぎ、荒海に舟を進めて、命懸けで漁を続ける小さな漁師村に生まれ育った。穏やかに光る海に、一人佇む。

◎景気回復？桜咲く！

東京で桜が開花した3月末の週末の夕方、日本橋コレド室町二階のイタ飯屋のパーティー会場から外を見やると、並木の桜の若木が可憐な花をつけている。再開発街区のかわいい幼木が、目一杯晴れ着を纏ったからか？それとも急に春が訪れたからか？街行く人々が、桜を見上げたり、写真を撮ったり、春の訪れを寿ぐ。

かつて営業マンとしての「才能」を開花させてくれ、今も営業を手伝う高橋カーテンウォールのOB会。株主総会后、多くは株主でもあるOBが集まり、現役経営陣との交流を図る。赤字続きで昨年はパーティーも中止。長いデフレからの復活が始まり、12月決算は数年振りに劇的に黒字転換、晴れてパーティーを再開。日本橋の街を彩る、石とコンクリートの外壁を製造・施工した同社の復活を言祝ぐかのように、桜が咲く。

独立すると、一社だけ、一業種だけで食べて行くのはリスクが多い。幸い色々な方から様々な顧問先を紹介して頂き、20年近く営業顧問業を続け、「殆ど治癒する見込みなし」のステージⅢbの大腸がんも克服、金にならないことも色々やって来れた。最近手伝うようになった会社の社長によれば、「この会社を知っている、あの役所に強いという人はいても、●のように、どこにでも繋がるという人は珍しい」らしい。それに学生運動の活動家として、機関紙売上ナンバーワンを誇っていたから、営業向きなのかも知れない！？

目白の椿山荘が仕事始めて、東大病院や医科学研究所では併せて毎年4千万円水道料を削減して母校に貢献、京都駅ビルでは毎年7千万円の水道料を削減した上で、水源を二重化、事業継続性（BCP）を高めることに貢献している「水商売」。つくば大病院や佐賀大などに続き、JR西日本の新大阪駅でも役に立てそう。電源開発の費用とリスクで井戸を掘り、膜濾過の設備を作って、水を安く供給、駅ビルは年間1千万円ほど経費を節約した上で、水源を二重化、地震で市水がストップしても水が使える、事業継続性が高まる。地震の時、水道が止まった神戸では、トイレが使えなくなった市民が駅のトイレに殺到、異臭を発する惨状だったという。京都駅に続いて、新大阪駅でも、地震で市水が止まっても、市民に快適なトイレを使って貰えるようにしたいものだ！

◎アメリカでは囚人が解放され、金持が塙の中に！？

先日、オバマ大統領来日の折、格差社会アメリカの現実をNHKのクローズアップ現代で垣間見る。アメリカでは中間層の解体が進み、富裕層に富が集中、増大する貧困層は困難な生活を強いられているという。あまつさえ、富裕層は門とフェンス、銃を持つ警備員に守られた高級住宅街に住み、独立した自治体を作りさえする。

金持ちが抜けて貧乏になった自治体は治安、衛生、教育などの住民サービスが低下、刑務所も維持出来ず、囚人を解放、治安は益々悪化する。本末転倒だ。犯罪人は娑婆に住み、金持ちが塙の中、「刑務所」に住むとは！富が富裕層に集中、中間層が解体、二極化、格差が激しくなると犯罪も増え、治安維持のコストが嵩む。中間層が厚くて犯罪が少なく、治安にコストがかからず、均しく安全・安心と住民サービスを享受出来る社会がいい。

日本は今のところ、安全・安心、便利な国として海外からも評価が高い。東大三鷹寮で留学生と交流すると、日本が好きになり、一度母国に戻っても又、帰って来たいという。日本も労働力の流動化で、派遣や不定期雇用の労働者が増え、今又、残業制度の廃止など、労働条件の劣悪化が危惧されている。アメリカの轍を踏んではいけない。

◎安重根と革命無罪

中国ハルピンに、韓国の要請で中国が安重根記念館を作る。日本政府の官房長官が、テロリスト、犯罪者を持ち上げるとは何事か！と、中韓に抗議したが、日本帝国主義の朝鮮侵略、植民地化を不幸な歴史だったと反省する日本国政府の一員が、日本国首相だが、朝鮮総督でもある伊藤博文をハルピン駅頭で暗殺した安重根の、日本帝国主義の朝鮮侵略、植民地化反対行動を否定するのは、内閣の方針に反することにならないか？

形式的に日本国刑法に触れ、殺人犯として処刑された安重根だが、日本の朝鮮併合・植民地化を否定する立場に立てば、日本帝国主義の朝鮮侵略反対、民族解放革命の英雄でこそあれ、犯罪者ではない。正に造反有理・革命無罪なのである。日本帝国主義の敗退と朝鮮独立が現実になった以上、バスターユ牢獄を襲撃したパリ市民をテロリストと呼ばぬように、安重根の行為は名実ともに無罪となった。それが歴史というものである。

まして、日本政府が過去の日本帝国主義の朝鮮侵略、植民地化を否定し、日朝間の不幸な歴史を反省している以上、その時点で安重根の伊藤博文暗殺は超法規的な行為として、無罪と評価される。正に勝者の歴史こそが、世界の歴史なのである。この期に及んで安重根を犯罪者、テロリストと難じるのは歴史を理解しない、歴史観を持たない者の妄動であり、相手方の思う壺で、国際的にも理解されないだろう！

◎大雪顛末・スキーも人生も逆張り

2月の飛び石連休初日の8日(土)、大雪で大変だとテレビは騒ぐが、大雪大歓迎！最も降り過ぎて、高速道路が通行止めになるのは困るなど、都合のいいことを考え、奥利根の宝台樹スキー場に向かう。逆張りは🐟の性。高速に乗ってしまえば、道路も蕎麦屋もスキー場も空いていると思ったが、何故か高崎から沼田あたりまで渋滞。不要不急な外出は控えて！と言われると、蕎麦屋もスキー場も可哀想。渋滞は気象庁とNHKのお節介の無視の結果だ！98年以來の大雪だとテレビは言うが、その時か？宝台樹目指して高速道路に乗ったが、何故か先行車も、後続車もない無人の、白無垢のバーจินロードを走り続け、水上の出口で初めて、通行止めになっているのを知ったことがあった。ようやく宝台樹のスキー場に入り、蕎麦屋までの坂で愛車プジョーが息切れ、エンジン空回り？の危険信号がチカチカ点灯、スピードが落ち、止まりかける。STOPの表示を無視、アクセルを踏み続けるとオーバーヒート。かろうじて蕎麦屋の駐車場の入口で煙を吐いてダウン。とりあえず同行のK君がどうにかJAFと連絡をつけてやれやれ、蕎麦屋に入る。

8時に晴海を出て、4時間半、大雪警報の割に道路も混む。満杯の蕎麦屋で少し待って山うどと山椒の煮物、白菜漬けとモツ煮で地酒をやる。結構逆バリ仲間が多い。JAFが来るまで4本、1時間ほど滑る。JAFは大きなレッカー車で来るが、外気で冷やされ元気回復したプジョーのエンジンは再び元気に回転、不凍液をたっぷりサービスしてJAFは帰る。一抹の不安を残しながらも4時半のリフト終了まで1時間強、メインの1キロ半のロングコース2本を含め、更に5本滑る。計9本、渋滞とトラブルの割に良く滑ったと、プジョーのキーを回す。エンジンは何事もなかったかのように回る。やれやれ、ギアをバックに入れアクセルを踏むが動かない。蕎麦屋の軒下の雪よけで前輪周りの雪を掻き出すが、駆動輪の前輪は軟らかい雪の上で、虚しく空回りを繰り返すだけ。偶々スキー場の「お助け隊」が通りかかり、ロープをかけて引いて貰い、窮地を脱する。

トラブル続きだから、町営温泉に入らず早く帰ろう！と水上のインターに着くと、次の月夜野インターから先の関越道は通行止めだという。取り敢えず高速に乗る。月夜野インター手前の下牧パーキングのはるか前から渋滞、少し走っては止まりを繰り返し、プジョーは又、STOP と悲鳴をあげ、路側に止める。110 番しパトカーを待つが、渋滞だから来ない。来てもパトカーは何も出来ず、仕方なくもう一度キーを回すとようやく冷えたエンジンが回り動き出すが、ほどなく水温計が上がり、又路肩に止める。非常電話が側にあり、今度は NEXCO に電話。ウチでレッカーするとお金がかかる。JAF か保険会社に連絡されたらどうですか？と言われ、JAF と保険会社に連絡を取り続け、9 時頃保険会社と連絡が取れ、近くのレッカーをお願い。上毛高原からの 9 時半の新幹線最終には間に合わず、最悪ラブホテルで男二人抱き合って寝るか！と言っていると NEXCO のパトロールが到着。沼田に行けばビジネスホテルがあるという。1 時間くらいで魚沼ロードサービスからレッカーが来ると、10 時頃保険会社から連絡。渋滞を沼田まで行くより、逆方向の湯沢に行く方がスムーズ！湯沢なら電源開発のダムがある。顧問先の電源開発の相方に電話、ホテルを手配してもらおう。保険会社手配のレッカー車がきたのが 12 時頃、ようやく朝 5 時半頃レッカー車で越後湯沢に。宿泊代は要らないというホテルにお礼をいい、コンビニでお握りとお茶を買い、6 時過ぎの朝一の新幹線で無事朝帰り。修理工場は、車のフロントに雪がくっついて、電動ファンが回らなくなったためオーバーヒートしたという。六日町から直接東京の修理工場に入れてもらうが、レッカー代は保険でカバー出来、一安心。

◎白いのにグリーン！？二酸化炭素は悪者か？

氷の島なのになぜグリーンランドか？それはグリーンランドが 12 世紀まで緑に覆われた島だったから。それ以降、地球は寒冷化しているということだ。「地球温暖化」については、強力な異説があり、長い地球と宇宙の歴史の中で、宇宙線や太陽の活動の方が地球に大きな影響を与えている、温暖化より寒冷化の方がより深刻な問題だと。勿論、化石燃料の使い過ぎ、しかも非効率な使い過ぎはいけないが、温暖化を悪者に仕立て、炭酸ガスをその主犯にしてはいけないと。

暑過ぎず寒過ぎず、水が液体として存在、生命の居住可能な惑星、地球。温暖化の元凶として二酸化炭素が目玉の敵にされるが、的外れの感。137 億年前、高温・高密度の火の玉状態「ビッグバン」で宇宙が始まり、地球誕生は 46 億年前とも。原始大気は二酸化炭素が大部分を占め、一酸化炭素、窒素、水蒸気を微量成分として含む、現在の金星状態。水蒸気が火山からの過剰放出と温度低下で凝結、雨として降り注ぎ、海を造ったという。

32 億年前までに藍藻などの光合成を行う生物が現れ、海中に酸素を供給、体内に有機物として炭素を蓄積、過剰な炭素は化石燃料と生物の殻から出来る石灰岩などとして固定された。大気中の酸素は紫外線と反応しオゾン層をつくり、紫外線が減少、生物が陸上に上がれるようになり、人類の誕生に至る生物の進化が始まる。

植物は二酸化炭素と水から太陽エネルギーの力を借り、光合成で有機物と酸素をつくる。他方、動物は有機物を体内に取り込み個体を形成、体内に取り込んだ酸素で有機物を分解しエネルギーを得、二酸化炭素と水を体外に放出。植物と動物、酸素と炭酸ガスのバランスで成り立つ地球の生命圏は、人間の過剰な繁殖で危機に晒される。炭酸ガスが地球温暖化の犯人とされるが、炭酸ガスを人間にとり必須の炭水化合物と酸素に変える植物、つまり

地球の衣服とも言うべき森を切り開き、「文明開化」の掛け声の下、地球を裸にしたことこそ問題ではないか？豊かな緑の衣装を再び地球に着せてやることこそが必要ではないか？

の極東ロシア紀行（クラブツーリズム、ウラジオストック・ハバロフスクとシベリア鉄道3日間、2013・9・21～23）（上）

がん保険で頂いた軍資金一千万円も10年で底を尽き！？一年振りのツアーになる。

① ウラジオの夜は更けて

成田出発が21日2時半（到着は23日2時）なので、朝食後月島の区営プールへ。25mプールを14回半往復。朝日新聞を読み、日経はカバンに入れ成田へ。お昼にと、鮭とタラコのおにぎり、茹で玉子をコンビニで買い、ガラガラの京成スカイアクセスで食べる。珍しく集合時間より30分も早く第二ターミナル着。ビール代5千円両替、1300ルーブル。窓口のお姉さんにツアー用の財布を開いて見せ、ルーブルありやを問うと、10ルーブル札が6枚入っている。和活字が足りなくなると寂びしい、日経ビジネスを買う。

こんなに予習できなかつたツアーも珍しい。いつもは中公新書の「物語○○の歴史」や明石書店の「○○を知るための50章」など、関連本でその国の歴史や社会、政治経済を学ぶいい機会なのに、手頃な本がみつからない。3時間のフライトで行ける「身近なヨーロッパ」にしては人気なし。だから高い。ほぼ48時間の旅が1人20万円、35人のバス二台、70人のツアー。よく集まった、クラブツーリズムは笑いが止まらないか！

快晴の成田を3時頃離陸、3時間ほど飛び、冷やんとするウラジオ空港から1時間ほどバスで走り、時差2時間、9時ウラジオストックホテル着。バスの道中茜色に染まっていた空も完全に漆黒に。三方海に囲まれ、日本海に突き出た半島の、坂の町の高台にある、町の名を冠したホテル。名門なのだろうが古臭く、見下ろす港の景色も晴海の我が家から望むお台場の夜景に比べ格段に寂しいが、弥生の夜の故郷のイカ釣り船の漁火の、美しさに似て風情あり。台湾の高尾の港のケバケバしさに比べる間もなく、落ち着くは佳し。

そんな異国の丘のホテルで秋刀魚の昆布煮と鯖味噌煮缶を肴に、今朝家の近所のマルエツで買った紙パック純米吟醸を飲み、ミニカップラーメンで締める。軽食の機内食のみで、夕食なしとは！震災に遭った訳でも無かるうに、侘しきの夕食。阪急交通トラピックスなら、空港から先ずレストランへ。ホテル着がたとえ10時になっても、お客さん、異国の晩ご飯はありません。何なら成田で用意して行って下さい！そんな馬鹿は言わないだろう。てんこ盛りで（見所沢山）、面倒みのいいトラピックスが懐かしい。10時半も過ぎて、雷鳴かと思いきや、花火の音すれども姿は見えぬ。70人も日本人が泊まって一斉にシャワーしたら、水浴びになるだろう、早寝、早起き、早シャワー！寝るが先！

② APECのおかげです！・・・ロシア人気質

田植えの頃空からは水に浮かぶように見える成田が、収穫の秋は金色に光る。青い海がまだ盛んに蒸気を発生するからか、白い雲の海の上を飛ぶ。白い海が途切れると、濃い緑に被われた山波が続く。これがタイガ・針葉樹林帯だ。果てしなく続き、人の気配はない。山波の間に茶色の筋が走り、筋と筋が一つになると幅を増し、川らしきものに見える。人工的な線で区切られた茶と緑のグラデーションが現れ、ようやく人家らしきものが見える。

川と耕地が広がり、送電線が山波のタイガの緑を剥って走り、高層の建物も姿を現すと、左に旋回、広い茶色の川床を粘土色の大蛇がのたうち回り、両岸にウラジオストクの市街が現れ、コバルトブルーの海が見える。この海も🐟が慣れ親しんだ日本海。長く綺麗なつり橋が途切れ、空港が現れるが軍用機だけ。間もなく別の立派な空港が現れ、ボーディングブリッジを渡りターミナルへ。

APEC（アジア太平洋経済協力会議）のおかげで新しい橋も出来、空港のターミナルも一新、都心と空港を結ぶ橋も新設されたと、イケメン現地ガイドのイワン君。新造の橋と高速道路、3車線に拡幅改修した一般道路を走り、海辺の丘の上のホテルへ。昨年9月のAPECウラジオストク総会を機にプーチン政権はインフラを整備、極東ロシアの経済発展を図ろうとした。ガイドはAPECのおかげと何度も強調。90年のソ連崩壊後、衰退する一方だった軍事都市が、開かれた経済都市として再発展するのを期待するからだろうが、思うように建設が進まない「ロシア人気質」が話題になる。二つのヒルトンホテルを始め、未完のプロジェクトがいくつかある。来年二月のソチ冬季五輪は大丈夫かとの声。

現地時間（日本+2時間）の6時前に目を覚まし、外はまだ暗いが7時から朝食だと、慌ててシャワー。湯船に浸かれないのは寂しい。ビュッフェ形式の朝食は洋風のメニューが一通り揃い豊富。あれもこれもと、つい食べ過ぎる。お昼はサーモンのグリル。ビール150ルーブル（×3円、4.7%、500ml）。夕食の時にと飲まなかったが、ウォッカがショットで100ルーブル。パンが出て来ず、デザートだと言って野菜と豚ひき肉の入ったピロシキ。熱々の揚げパンは美味しいが、今日はデザートが二つですと、アイスクリームも。ピロシキを出し遅れただけだろうと、ロシア流に怒る気にもなれず。食事中にすみませんが、ロシアのトイレには落とし紙を捨てないで下さいと添乗員がアナウンス。便座がないトイレも多い。便器の基部に便座取り付け用の穴が開いているから、ロシア人のお尻の重さに取り付け金具が耐えられないのだろうか？！

③ ホテル・シベリア鉄道

中国国境まで50キロ、陸に丸く日本海が食い込み、その日本海に更に突き出たムラビヨフ・アムールスキー半島の先端に、L字形に細く入り汲んだ金角湾。そこにシベリア鉄道の始発駅ウラジオストク駅がある。17世紀までにシベリアとユウラシア大陸の太平洋岸までを支配したロシアは、太平洋への橋頭堡とすべく1873年にウラジオストクを開港。遠く離れたヨーロッパロシアと極東ロシアを結んで一つにする。その連絡・補給手段として、モスクワまで全長9297km、世界最長のシベリア鉄道が構想された。

イワン雷帝の命で建設されたウラジオストクは、ロシア太平洋艦隊の指令部が置かれるロシア東端の要衝、要塞都市でもある。港には何艘もの軍艦が係留され、半年間潜航可能で、映画館やプールもある原子力潜水艦も巨体を横たえる。陸上にも潜水艦が係留？される。第二次大戦を戦ったC56博物館で、初めて潜水艦の内部を見る。1人当たり1平米の占有面積で1ヶ月潜航したまま、守ったものは何だったのか？帝政ロシアから社会主義ソ連、更に「自由主義」ロシアへの変遷を目の当たりにして感慨深い。近くには先の大戦で勇敢に戦い犠牲となった、ウラジオストク市民の個人名を刻み顕彰する、巨大モニュメント。

浦潮本願寺跡も見学。ウラジオストクには明治初期から日本人が居住、人口6千人の日本人街をつくり、浦潮本願寺を心の支えとして、各種の事業に活躍したという。1891年、

日本訪問中に津田巡査に斬りつけられたロシア皇太子、後のロシア皇帝ニコライ二世は、ウラジオストクに帰国、シベリア鉄道の起工式を行う。多くの日本人がこの鉄道でヨーロッパを目指した。ヨーロッパに滞在する鉄幹の後を追いついた与謝野晶子の碑も見学。脱亜入欧を掲げ、世界に飛び出す、勃興期日本の息吹きを感じる。(続く)

◎東大三鷹クラブ第114回定例懇談会のご案内

京都大学工学研究科材料工学専攻河合潤教授(昭和53年入寮)に、「和歌山カレーヒ素事件鑑定の問題点」というテーマで話して頂きます。最近も元ボクサーの袴田死刑囚が冤罪を認められ釈放されましたが、今回は耳目に新しい、林真澄死刑囚のカレーヒ素事件の鑑定がテーマ。三鷹クラブは開かれた組織です。読者の皆さんも奮ってご参加下さい!

世間を大きく騒がせた事件ですが、人の生死も左右する裁判は、証拠に基づき厳正になされるべきで、憶測や時代の風潮に流されてはいけません。河合君はX線を用いた環境分析方法開発の第一人者で、和歌山毒カレー事件に使われたヒ素と林真須美死刑囚の自宅から発見されたヒ素は別物という再鑑定を出し、それを元に弁護団が再審請求したところ、2チャンネルで大バッシングされたという。スプリング8という、どんな微量物質の分子構造でも解析できる最先端の放射光施設(建設費1100億円)でも、分析する人間によって違いが出る、包丁は使い用という不思議。2チャンネルというネット世論の裏と表、在り様、気候変動、災害対応等についても話して貰います。

河合君は最近も「西暦536年の謎の大噴火と地球寒冷期の到来」(デスカバー・トウエンティワン)を出版、火山の大噴火や太陽黒点の活動の変化によって、地球が寒冷化し、世界的な飢饉や自然環境、社会の大変化が過去に何度も起ったことが、グリーンランドや南極の氷柱の分析から分かる、古事記の天照大御神の天の岩戸の古事もそれで説明できると説きます。今回はその辺のお話も聞かせていただけたと思います。皆様、奮ってご参加下さい!最後に同書の一節を引用させていただきます。

「気候変動が歴史に与えた影響を学べば、将来の温暖化や寒冷化と、それにとまなう洪水や干ばつによって、社会がどんな影響を受けるかを想像することができます。どういう事態が起こるか、社会の構成員皆が想像できるようになれば、それに対抗できる社会をつくらうという意識や、避けられない災害が繰り返してやってくることも覚悟できます。

八百万の神の前でおどけたストリップをしたアメノウズメのように、日本人は、太陽のない暗黒時代でも明るく生きぬいてきた伝統を思い出すことにも意義があると思います。」

(S41年入寮 干場革治 記)

日時:平成26年5月27日(火) 18時30分~21時

場所:学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会費:5000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み。別途二次会あり)

申込先:干場Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp FAX 03-5689-8192

◎反省ばかりの!?過去、現在、未来

4月12日(土)新幹線で宇都宮へ。在来線で矢板へ。駅前のホテルで85才の寮の元職員、築瀬さんを囲んで昼食会。80才から65才までの14人で老老慰労会。霞ヶ関の元局長の平賀代表(S26年入寮)、現役の経団連副会長の宮原日本郵船会長(S40年入寮)から

天下の素浪人の●まで、寮委員長経験者を中心に、皆に会いたいという築瀬さんを囲み、昔話に花が咲く。旧制高校の伝統を継ぐ自治寮三鷹寮解体イベントのビデオを観ながら、最後に皆で一高以来歌い継がれた寮歌新墾（にいほり）を肩組み歌う。頬に涙、ダラダラ。

終わって、新幹線と電車で三鷹へ。寮で新入生歓迎会、寿司桶持参で、1年上の辰さんと参加。若者と未来を語り合う。金は出さないのに口は出す教養学部の指示が徹底、1年生は未成年だからとアルコール抜きだが、200人以上集まり、結構盛り上がる。去年から新入生にメールアドレスを申告させるようにアドバイス。リストをつくるようになったのは一歩前進。学部から何も情報が入らず「隣は何をする人ぞ？」では困ります。

濱田総長の5年の任期もそろそろですが、「森を動かし」「タフな東大生をつくる」方針にも教養学部は動かず、三鷹寮はワンルームマンションのまま。ワンルームマンションを寮に変えて、交流の場、切磋琢磨の道場とするのは、手っ取り早い「タフな東大生づくり」になると思うのですが！タフな老人はいつまで頑張れるのでしょうか？

バングラデシュ、エチオピア、インドネシア etc、各国の留学生とも話が弾む。英語真面目にやっておけば、もっと楽しめたのにと反省。矢板では、寮委員長の時に、階級性のない歌は歌うな！インターナショナルや国際学連の歌などの革命歌を歌え！と寮生を「指導」、寮歌高吟の伝統を絶やしてしまったことも皆の前で反省。

◎辰邸で懇親会

4月5日、新入生歓迎会に先立ち、三鷹寮近くの辰邸で、留学生のチューター役の院生会の皆さんと懇親会。有楽町の交通会館の秋田物産店で八森の鈴木水産のハタハタ鮓と秋田の地酒大平山を手に入れ、持参。新川の交差点で見つけたムスリム娘も拉致。参加者は元濱 奈穂子（2013年入院・教育学研究科・大阪府）、松原 宰栄（2013年入院・数理科学研究科・栃木県）、田部 淳 ウイリアム（2009年・教養学部地域文化卒・仙台第二）、劉 高翔（2011年・経済・中国）、松澤 早希（2008年・総合文化研究科・土浦第一）、西岡 みなみ（2011年入院・総合文化研究科・千葉県）、田中 翔（2011年入院・理学系研究科・東京都）、NYRUL IZWA BINTI MOHO TAIB（マレーシア）

◎ヒストリックカーラリー

11年入寮の兼子君などを同行した、NHK前副会長の小野君への直訴はかなわなかったのですが、BS11の30分ほどの特集番組で、通信百号で触れた東大の授業の一環としての、フランス縦断ヒストリックカーラリーへの参戦を見る。今時の若者もよくやる。場を与えられないだけじゃないか？タフな東大生もいるじゃん？！と少し安心。

◎ゲレンデバトル！？（結びに代えて）

今年も宝台樹の蕎麦屋で地料理と地酒を楽しんでから滑り、手前の越後湯沢で降りて、美味しい蕎麦と地酒をやってから、シャトルバスでGALAへ行って滑る。長野県の30のスキー場がゲレンデ食事バトルと名付け、スキー場のレストランの食事の人気投票、地産の食材で各種の本格料理を提供、2割客数アップのコースもあるという。ゲレンデで美味しい料理と地酒を手軽に楽しめれば、シニア、ファミリーを中心にスキー・ボード客も増えないか？新潟や群馬、東北、北海道と広がり、全国大会に発展すると面白い！再見！